

■全国研究部門等の活動紹介■

社会科部門

渡部 竜也

本部会では、日本社会科教育学会及び全国社会科教育学会と共同で、教師教育関係の研究を中心に共同で研究企画を行っている。またこれとは別に、関東支部と関西支部に分かれて研究会を年1回程度開催している。ここでは、本年度の事業を中心に、その活動について報告したい。

1 日本社会科教育学会との共同事業

実施日：2019年9月14日（土）、15日（日）

会 場：新潟大学教育学部

【シンポジウム】

社会科の実践者・研究者は子どもの学び、その成長をどのように捉えるのか

《登壇者・発表内容》

大矢和憲（新潟市総合教育センター）

「小学校社会科における社会に拓かれた授業への改善—社会への関心を高める授業の充実に向けて」

一柳智紀（新潟大学）

「授業におけるコミュニケーションに見る子どもの学び—社会科教育への視座として」

渡部竜也（東京学芸大学）

「社会文化的アプローチは社会科授業研究を変えるか？—米国社会科教育研究に押し寄せた質的研究革命を中心に」

溜池善裕（宇都宮大学）

「奈良女子附属小の「学習指導」がどのようにしてそれを「しごと」にし子ども達を成長させていくか—板書・日記・授業記録を4年6ヶ月追って分かったこと」

【課題研究】

教職大学院における社会科教育の在り方と今後の展望

《登壇者・発表内容》

廣瀬裕一（上越教育大学名誉教授）

「上越教育大学教職大学院実習の取り組み—教科教育の視点からの展望」

江間史明（山形大学）・高橋実（山形県教育委員会）

「教職大学院における教科教育カリキュラムの検討—山形大学教職大学院・教科教育高度化分野の場合」

斉藤一久（東京学芸大学）

「教職大学院における社会科教育—『理論と実践の往還』という理念と現実」

2 全国社会科教育学会との共同事業

実施日：2019年11月9日（土）、10日（日）

場 所：島根大学教育学部

【シンポジウム】

「深い学び」の実現とはーコンピテンシー・ベースの社会科教育の構築

《登壇者・発表内容》

岡崎誠司（富山大学）

「「類推」を原理とする小学校歴史学習の授業構成ー第6学年「徳川家康」の場合」

樋口雅夫（玉川大学）

「「資質・能力」育成の手立てとしての「主体的・対話的で深い学び」ー中央教育審議会の議論における「深い学び」の構成要件構築過程を紐解いて」

中村怜詞（島根大学）

「総合的な探究の時間の充実と歴史教育の接続ー隠岐島前高校のグローバルヒストリーをめぐって」

桑原敏典（岡山大学）

「学習者が実感する「深い学び」とは何か？ー「何を」ではなく「何のために」から作る社会科授業の構築を目指して」

【課題研究】

社会科教師教育の常識を問い直すーエビデンスから考える教員養成・教員研修のあり方とは

《コーディネーター》

草原和博（広島大学）

《登壇者》

栗谷好子（広島大学附属高校）

石川照子（兵庫県立西宮香風高校）

大坂遊（徳島大学）

星瑞希（東京大学大学院）

3 日本教育大学協会社会科部門関東地区部会の活動

実施日：12月1日（日）

場 所：早稲田大学教育学部

【シンポジウム】

学生・教師の実態から社会科教師の育成を考える

《登壇者》

渡辺貴裕（東京学芸大学）

大坂遊（徳島大学）

中村怜詞（島根大学）

4 近年の動向と今後の展望

このように、社会科部門の近年の問題関心は、教職大学院体制における社会科教育学の役割の見直しや、エビデンスベースの教師教育研究（そして社会科教育学研究）のあり方を根源的に問い直すことにあると言ってよいだろう。これらは近年の世界的潮流とも言え、この傾向はしばらく続くと思われる。

教職大学院体制下の社会科教員養成のあり方に関しては、すでに2019年の春にも、日本社会科教育学会出版企画委員会主催で一度、催しをしており、筆者（渡部）が登壇している。また同委員会と共に、その成果を来年度にまとめて出版する計画もある。

(東京学芸大学 准教授)